

詩に親しもう

知的障がい
中学部 1年
国語「詩に親しもう」
教科・領域の時間

ねらい

- いろいろな詩に親しみ、その表現や言葉を楽しむ。
- 思いや考えを仲間と互いに伝え合い、共有する。
- 感じたことや想像したことを自分らしく表現する。

学習展開

- ◎単元に入る前に～言葉の意識を高める取組みとして～
- ・いろいろな詩の表現に親しむことができるよう、朝読書の時間に詩を音読する。
 - ・言葉への意識を高めることができるよう、毎日5分間テーマに合った言葉や指定された頭文字のつく言葉を書き出す活動をする。
- ① テーマに合うオノマトペを生徒一人一人が考えて花びらをモチーフにした紙に書き、全員で協力してひとつの「オノマトペの花」を作る。
 - ② 詩「月火水木金土日のうた」を読み、本文の一部を□抜きにして言葉を予想したり、自分らしい表現を考えたりする。
 - ③ 曜日担当を決め、各曜日の頭文字がつくオノマトペや、後に続く表現を考え、クラスオリジナルの詩を合作で作見合う。
 - ④ 作った詩を鑑賞する活動を通して、面白いなと思ったところや好きなどころなど感想を伝え合い、自己理解や他者理解へとつなげる。



『オノマトペの花』作り



合作の詩が出来上がった様子

司書教諭と学校司書の関わり

- 司書教諭は、単元の学習開始前に、学校司書に内容を伝えて資料の相談をする。
- 学習の進度や生徒の実態・興味関心に応じて学習内容を選び、学校司書に相談し図書館にない参考資料の購入を依頼する。

指導のポイント

- 「自分で考える時間」と「教師や仲間と考える時間」、そしてそれを「全体で共有する時間」を設定することで、自分の考えを知らせる楽しさを感じ、仲間の視点に触れ、新たな視点を獲得の喜びにも気づけるようにした。

資料

- ・「くだもの」「月火水木金土日のうた」（『こどもあそびうた』収録の詩）（谷川俊太郎／著 山田馨／編 童話屋 2018）
- ・『白石範孝の国語授業の教科書』（白石範孝／著 東洋館出版社 2011）
- ・「国語の指導の考え方～言葉・思考へのアプローチについて～」（『特別支援教育研究 No.802』pp.4～5 武富博文 2024）
- ・「言語の発達の観点から見たオノマトペ」（『特別支援教育研究 No.802』pp.8～11 山田丈美 2024）
- ・『ラクに楽しく1時間中学国語ラクイチ授業プラン』（ラクイチ国語研究会／編著 2017）
- ・『生徒がいきいき動き出す！中学国語 言語活動アイデア事典』（鈴木一史／編著 2016）